

学校教育課だより

かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第2号】
令和2年
5月21日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

★令和2年度 教育指導センター基本方針★

「自律的な研修姿勢を」

御殿場市教育指導センター室長

高橋 正彦



コロナウイルス感染症予防対策のために、学校や子供たちは随分大変な思いをされていることと思います。令和2年度は厳しいスタートになりました。教育指導センターは、学校との連絡を密に取りながら、活動を進めていきたいと思えます。

今年度の教育指導センターの活動についてです。

勝俣純所長以下、高橋正彦、小林博之、岩田京子、湯山伸彦、芹澤ゆき子の五人の指導

員と、土屋英次（理科・道徳を中心）、豊福和夫（特別支援、福田道治（中学校音楽科）、勝又郁夫（中学校外国語科）の四人の外部講師で活動します。

新規採用二年目～五年目、任期付教員・臨時的任用教員経験一年目～五年目までの教師、特別支援学級担任経験一年目～五年目の教師を対象に訪問指導を行います。また、各種研修会の実施、ブックレットNo.7の発刊を予定しています。

特に今年度は、中心的な業務である「訪問指導」の充実を図っていきます。

具体的には、昨年同様、一年に一回は事前研修を実施します。指導員と授業者が一緒に知恵を出し合って授業づくりを行います。児童理解に基づいた教材研究をしながら、「主体的・対話的で深い学び」「幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿の具体化」を目指していきます。

小・中学校については、訪問指導の授業に一年に一回は道徳科を取り上げていただき、道徳科授業について研修を深めていきます。

また、指導の中で、授業者が日々の授業づくりや学級づくりの中で感じている問題や悩み等についても、できる限り聴いていけたらと思っています。

このような訪問指導を通して、若い先生方に「教師としての自律的な研修姿勢」を身に付けて欲しいと願っています。これは、若い先生方がこれから教師として伸びていく基盤になります。昨年度末に行ったアンケートで、一人の教師が次のように書いていました。

「自分の授業について研修を深める機会が少ない中、授業案を含めて、改めて自分の授業について見つめ直す機会としてよい時間になったと思う。事後指導においても一対一で教育や授業について話す機会もほとんどないため、必要であると思えた。」

この教師の言葉には、自分で自分の教師力、授業力を伸ばしていこうとする強い自覚が感じられます。その上で、訪問指導を自分の力量の向上に生かしていこうとする積極的な姿勢があります。

若い先生方の、自ら伸びていこうとする意欲や姿勢を大切にしていきたいと思います。

こんな時期だから、「夢とロマン」のある

教育実践を

教育指導センター

非常勤指導員

土屋 英次

1 長期休業中の子どもたちの実態を把握していますか？

このことで、思い起こされるのが、無着成恭先生の「生活綴方」の実践です。

山びこ学校・山形県山元村中学校生徒の生活記録です。一九五一年クラス文集を刊行しベストセラーになりました。現職の経験豊かな先生方の年代は、「全国」でも電話相談室の回答者の先生として、知っている方もいると思います。

私が言いたいことは、休業中の家庭での子供たちの「生活記録」を本音で書かせていると、子供たちの生活実態が詳細に把握でき、今後の学校生活の戦略を組みやすいと考えるからです。それほど、この「生活綴方」の実践は、素晴らしい。この地域には、「駿東文園」という宝物があります。

2 小学校の卒業式で、「よびかけ」が行われています。誰がはじめたの？

この「よびかけ」を最初に発案したのが、一九五二年群馬県佐波郡島村立島小学校校長に着任した齋藤喜博先生です。この島小学校での授業と行事（合唱、体育発表、野外劇等）は、有名でした。賛否両論ありますが、私は、新任教員のころ、島小学校の合唱についての実践を読み、感動しました。また、目標にもなりました。

「子供の無限の可能性」授業の創造「教師は授業で勝負する」「ゆさぶり」などは現在の教育実践にもつながっています。

3 「はてな?」「授業のネタ」「追求の鬼」などで有名な授業の達人は誰?

私は、筑波大学付属小学校で活躍されていた「有田和正先生」の実践を拝見して、こんなにも子供たちが生き生きと夢中になって「はてな?」を追究するものなのかと圧倒されました。子供たちだけ

く、参観している教師も引き込まれます。

(1) スイカは美味しいところから食べる。授業もまた同じ。

有田先生は、スイカの真ん中と同じく、授業で美味しいところをドーンと与えるからこそ、子供は食いつき、熱中し、追求し続け、満足感を味わうのだと

(2) 材料七分に腕三分

授業は、教材の質にあると。言う。質が悪ければ、子供は全く食欲をそられない。常に新鮮なネタを用意し、それを料理し、発問を工夫することで子供は熱中し学びの虜となるのだ。と主張されている。

(3) 一時間で一回も笑いのない授業をした教師は逮捕する。

まだまだ、たくさん名言があります。何よりも有田学級の子供たちの発表には、常にしつかりとした根拠があります。曖昧な発表には、「証拠はあるの?」と問います。

学校再開の「やる気」「喜び」をつないでいく。温かな学級・魅力ある授業づくりを。学校教育課指導主事 平松 祐

子供たちの声がしない学校や町が、こんなにも寂しく静かなものなのかと実感する毎日が続いています。そんな中でも、先生方につきましては、子供たちの元氣な声を心待ちにしながら、六月一日からの園・学校再開に向けて御尽力のことと思います。

さて、学校再開に向けて、不登校や登校渋りの児童生徒が増えるのではないかとという点を危惧しています。臨時休業中の子供たちの生活を見ると、ゲームやSNSなど好きなことを好きなだけやって過ごしている子もいるでしょう。また、家族と一緒に過ごす時間が非常に長く、家庭から離れにくくなってしまいう子もいるはず。一方で、友達と久しぶりに会うこと、一緒に

遊ぶこと、勉強できることを楽しみにしている子もいることでしょう。

そうすると、学校再開時にとっても大切になってくるのは、友達や先生との再会の仕方を工夫すること、そしてその時のやる気や喜びをいかに継続させていくかということになります。通常の学校生活なら、行事や部活動などに向けて子供たちに目標を持たせ、やる気を引き出すことができます。

しかし、今年度はそうはいきません。子供たちのやる気を引き出し、友達や教師との関係を築いていく中心となるのは、学級での生活・授業になつてきます。

今年度も御殿場市では、「魅力ある学校づくり」を目指し、生徒指導の重点として「学びの実感が得られる授業の推進」と、自分の居場所があると感じられる温かな学級経営の充実を図ること」を掲げています。

様々な制限がある中で、「対話的な授業を進めるなんて難しい」と考えがちです。こんな時こそ、子供たちの関心が今どこにあるのかを捉え、魅

力的な課題・教材を考えていきたいです。魅力的な課題をクラスみんなで一緒に考えていくことで、共に学ぶ喜びを感じることができます。

また、授業でお互いの考えを認め尊重していく場面を設けることで、子供たちは「〇〇さんすこいね」「頑張ってたよ」と、学級での居場所を感じながら、学びを実感することができるよう。

このような非常時でも、子供たちの日常は、例年と変わらず続いていきます。だからこそ、日々の子供たちの様子に、いつも以上に目をかけ、手間をかけ、子供の内なる声や、一人一人のちよつとした

『兆し』を丁寧に拾ってください。そして、温かな言葉掛け・ボイスシャワーをかけてあげてください。子供たちはきっと、「園・学校って楽しいな。みんな（先生）といるとうれいな」と、感じてくれることと思います。

『温かな学級・魅力ある授業づくり』を通して、不登校やいじめの未然防止を進めていきたいです。